

第五次川越市国際化基本計画 令和4年度計画の指標

○基本目標1：外国籍市民への支援の充実

指標	単位	基準値 R2年度	実績値 R4年度	目標値 R7年度	進捗状況
日本語教室延べ参加者数 ※1	人	232	4,007	4,300	
市内地区別（全12地区）において対面型日本語教室を運営する割合	割合	2/12	2/12	5/12	

※1 川越市国際交流センターで実施する日本語教室への外国籍市民の年間延べ参加者数。

○基本目標2：多文化共生意識を持った市民の育成

指標	単位	基準値	目標値
		R元年度	R7年度
多文化共生の認知度 ※2	%	26.8	50

※2「令和元年度川越市国際化に関する市民意識調査（日本人市民向け項目）」において、「多文化共生」という言葉を「意味も含めて知っている」と回答した割合。次回の市民意識調査にて測定する。

○基本目標3：外国籍市民にも暮らしやすいまちづくり

指標	単位	基準値	目標値
		R元年度	R7年度
川越市の住みやすさ ※3	%	52.4	60

※3「令和元年度川越市国際化に関する市民意識調査（外国籍市民向け項目）」において、川越市は「住みやすい」と回答した割合。次回の市民意識調査にて測定する。

○基本目標4：姉妹・友好都市交流などの充実

交流については、事業内容の性格上、定量的な数値管理になじまないため、数値目標は設定しません。また、新型コロナウイルス感染症の影響や社会情勢の変化に左右されることも見込まれることから、交流事業の内容、方法、成果等について、定性的な評価を行います。

【令和4年度進捗状況について】

コロナ前の状況に完全に帰することは難しかったものの、一部の事業で再開の動きが見られました。特に、地域の国際化の拠点施設である「川越市国際交流センター」では、これまで市主催で開催していた日本語教室が、市と市民団体との協働事業となり、令和4年度4月から新体制の日本語教室がスタートしました。新体制のもとでは、各団体がそれぞれの特色や専門性を活かす教室を週11コマ展開し、多くの外国籍市民に日本語学習の機会を提供しました。また、国際交流センター以外の拠点での新教室開設については、関係機関と調整しながらも準備を進めています。

姉妹・友好都市交流については、本市の市制施行100周年を記念し「姉妹友好都市記念式典&シンポジウム」を開催しました。海外姉妹都市については各都市首長からのビデオメッセージとなりましたが、国内からは姉妹友好都市首長や関係者が一堂に会し、コロナ禍以降初めての対面交流事業となりました。交流については、相手市と調整をしながら再開に向けて準備するとともに、オンラインでの交流も検討しています。